

生徒一人一人に合わせた レベル設定で効果的な学習を (3年 Unit 3 Lessons From Hiroshima)

ひら やま あさ こ
平山 朝子 トキワ松学園中学校高等学校教諭

トキワ松学園中学校では、2020年から1人1台の端末を使い、デジタル教科書を活用した授業を行っています。

3年 Unit 3 Lessons From Hiroshimaの授業では、この日の授業に至る6時間、リスニングやリーディング活動を通して、内容理解や音読練習を生徒の端末と電子黒板を使いながら行ってきました。

7時間目は、ストーリーリテリングへの一歩として、絵を見てキーワードを言う活動と、リスニング活動を中心に行いました。この授業でのデジタル教科書使用のポイントをご紹介します。

●この日の授業の流れ

1. 2分間の単語テスト

2. Reading Aloud Practice Reading Aloud Pair Check

Unitの内容を軽くおさらいした後、端末を使って個人の音読練習。ペアで確認し合う。

3. Story Retellingへの一歩

Unit 3のピクチャーカードを見ながら、キーワードを言う。

4. Listening Activity

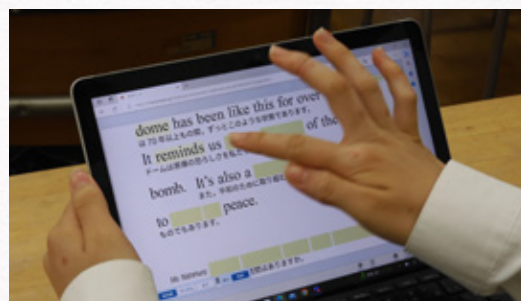
リスニング問題に取り組む。

デジタル教科書を使用するポイント

ポイント① Reading Aloud Practice Reading Aloud Pair Check

「本文」機能(本文拡大画面)を使った音読練習(個人・ペア)

- タブレットのみを机の上に出して、個人で音読練習する。
- 「マスク」機能を使い、語句を隠したり、和訳のみを表示させたりしながら、自分のレベルに合った方法で音読する。
- その後ペアを組み、一方の生徒がマスクをかけた状態の本文を見ながら音読。もう一方の生徒は、教科書を見ながら、うまく読めないときにヒントを出すなどしてサポートする。



ポイント② Story Retellingへの一歩

「ピクチャーカード」を使用したペアワーク

- ピクチャーカードを表示して、絵のキーワードを二つ以上言う(この際、本文は見ない)。



- 他の絵と重複したキーワードや、本文には出てこない語でもOK。
- 難しいときは、ペアの生徒がヒントを出す。
- ペアワーク後、クラス全体で活動。電子黒板にピクチャーカードを表示して、一人ずつ絵のキーワードを言う。

ポイント③ Listening Activity

デジタル教科書の音声を使ったリスニング練習

- 各Partのリスニング問題の音声を、各自イヤホンを使って聞き、答えを紙の教科書に書き込む。
- 一つのPartの問題を解き終えたら、先生のところに持っていき、見てもらう。
- 全問正解した生徒は、次のPartのリスニング問題に進む。1問でもまちがえた生徒は、もう一度同じPartを聞き、答えを修正する。
- Part 3まですべて正解した生徒は先生役になり、他の生徒の答えが合っているか確認する。



【私のデジタル教科書活用法】

デジタル教科書は、朗読音声の機能を使った

個人練習など、学習の定着のための活動に使うことが多いです。

この授業で行ったリスニング活動は、以前は教室全体で一斉に音声を聞いていましたが、学力差やリスニングの得意不得意があるので、イヤホンを使って個別に取り組むようにしました。教室内はしんと静まり返っていますが、生徒は集中して取り組んでおり、頭の中はフル回転しています。

また、リテリングに向けた一歩として、今回初めてピクチャーカードを使った活動を行いました。ピクチャーカードにキーワードをペンで書き込む生徒もいて、自分で学び方を工夫している様子が見られました。デジタルならではのメリットを感じています。

ほかにも、ペア活動やグループ活動として、これまで「本文実写ドラマ」を使ったアフレコを行ってきましたが、授業がとても盛り上がります。

デジタル教科書は、個人個人に合わせたレベル設定ができるところがとてもいいと思います。例えば音読練習の際、苦手な生徒は音読練習に入る前に何度も音声を聞いたり、練習しながら途中で止めたり、自分のレベルに合わせて使用しています。

デジタル教科書を導入してから、授業の準備も楽になりました。以前は日本語訳や穴あきプリントを生徒に配っていましたが、デジタルになってからはそれも不要になり、生徒たちは自分で必要だと思うタイミングでアクセスしています。

授業の様子をまとめた動画は
こちらから。

